

## 【佳作】

## 音が変わる

がたん。とん。  
 ぐつ。かたかた。  
 ういーん。しゅういーん。  
 かたかたかた。ぴろん。  
 ぺら。さらさら。ぺら。さらさらあ。とん。  
 かたかたかた。  
 ワン。ワンワンワンワン。  
 かたかた、かた、た。  
 ワンワンワン。ワン。  
 ぎー。ばたん。  
 こつん。こつん。  
 がたん。がさがさ。とん。  
 がさがさがさ。とん。とん。  
 ぺら。さらさら。ぺら。さらさらあ。とん。  
 どどどどど。とすとすとす。がたがたがた。  
 おはよう。眠いね。  
 ぴろりん。ぴろりん。  
 やばい。課題あつたじゃん。  
 がやがやがや。がやがやがや。

きーんこーんかーんこーん。きーんこーんかーん  
 こーん。

音が変わる。日常と出会う。

## コメント

大学の講義がほとんど対面で行われるようになった現在ですが、最近全ての講義がリモートで行われた新入生時代を振り返る機会がありました。その時ふと思ったのです。「耳にする音が変わった」と。新入生時代はとにかく孤独な時間が多かったように思います。パソコンの起動音。タイピングの音。椅子がカタカタ鳴る音。そしてどこかの家の犬の鳴き声。耳にする音はこれらでほぼ完結していました。一方、大学のキャンパスは音に溢れています。自分の立てる音だけではありません。人の動く音・声・建物から鳴る音。いくつもの音が重なって私の耳に押し掛けてきます。キャンパスに通い始めて、私は神奈川大学の日常と触れ合うことが出来たのです。

国際日本学部 国際文化交流学科4年 松永喜恋